

ちよっとそんぽいで

わがまち散歩

道すがら、心通わす人がいる
古里の温もりに包まれながら
あちらこちら、わがまち散歩



信仰の山、飯田山に抱かれる砥川地区。近年、新興住宅地も増え、若い世代の親子の姿や子どもたちの元気な声が日常に彩りを添えています。初夏の風を頬に感じながら、今回も温かい出会いがありました。

校庭に元気な声が響きわたって

朝露をまとったツユクサを見つけてきました。路傍のにぎわいもホトケノザなどから、ここうした夏の植物へとバトンタッチする季節です。

さて今回の散歩は砥川地区です。飯田山のふもとに広がる砥川地区の中でも下砥川地区は、町の過疎化対策により、ここ数年の間に人口がぐっと増えました。

「飯野小学校の児童数も、10年で3倍に増えました。全校生徒は246人。今年の新1年生は40人です」と話すのは須崎道友(すさきみとも)教頭先生です。同校では児童会の運営委員会のメンバーによる「あいさつ運動」も活発に行われています。5・6年生の児童で構成されたメンバーたちは毎週月曜日の朝、いつもより早く玄関口に立ち、登校してくる児童たちとあいさつを交わします。「あいさつが良かった人を選んで、給食の時間に名前

を発表します。あいさつのジャッジは私たちがします」としっかりとした受け答えをするのは、委員長で6年生の田崎綺菜(たさきあやな)さんです。校内ですれ違う児童たちの誰もが、「こんにちは」と元気な声を掛けてくれます。給食が終わった配膳室の前では、「1年2組ですつ。ごちそうさまでしたつ」と、新入生の給食当番たちが大きな声をそろえていました。そして昼休みにになると、児童たちはいっせいに校庭に飛び出します。鬼ごっこや輪の中には若手の先生たちも交じって、友だちのような仲の良い



飯野小児童会運営委員会の6年生の皆さん



上/校庭に咲いていたシロツメクサ
左/休み時間になると先生たちも交じって鬼ごっこ



話を聞かせてくれた須崎教頭先生



児童数が増加した飯野小